



特別支援学級交流～カリキュラムの連携～

11月2日(水)血倉小学校の特別支援学級と本校の特別支援学級が交流活動を行いました。芋ほりをしたり、イチゴの苗を植えたりして有意義な時間を過ごしました。

初めに、小畠先生が農作業の大変さについて話しました。収穫は楽ですが、それまでの育てる過程が大変で大切であること(雑草の処理、水やり等)を小学生に伝えました。その後、本校の生徒がグループごとに当日の流れをホワイトボードを使って説明しました。本校の生徒も「伝える」ことに大切さに気が付いたのではないのでしょうか。

いよいよ収穫です。まずは芋の葉っぱを刈り取る作業から始め、その後収穫しました。芋を植えた時の天候が悪かったせいか思ったより収穫できませんでした(残念!)、みなさん元気に活動することができました。

最後に、小学生が感想を言ってくれました。みんなしっかり感想を言うことができ、とても嬉しかったです。また、尾倉中に来てくださいね。

血倉小学校の児童の振り返りの中に、「中学校のお兄さん、お姉さんの説明がはっきりしていてかっこよかった」という内容がありました。さすが中学生です。今後、一緒に活動する機会があればぜひ小学生をリードしてくださいね。よろしくお願いします。

生活単元学習

生活単元学習は、児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際の・総合的に学習するものです。

生活単元学習では、広範囲に各教科等の内容が扱われます。生活単元学習の指導では、児童生徒の学習活動は、生活的な目標や課題に沿って組織されることが大切です。

【指導に当たって考慮する点】

○ 単元は、実際の生活から発展し、児童生徒の知的障害の状態等や興味・関心などに応じたも



のであり、個人差の大きい集団にも適合するものであるようにします。

- 単元は、必要な知識・技能の獲得とともに、生活上望ましい習慣・態度の形成を図るものであり、身に付けた内容が生活に生かされるものであるようにします。
- 単元は、児童生徒が目標をもち、見通しをもって、単元の活動に積極的に取り組むものであり、目標意識や課題意識を育てる活動をも含んだものであるようにします。
- 単元は、一人一人の児童生徒が力を発揮し、主体的に取り組むとともに、集団全体で単元の活動に共同して取り組めるものであるようにします。
- 単元は、各単元における児童生徒の目標あるいは課題の達成に必要なかつ十分な活動で組織され、その一連の単元の活動は、児童生徒の自然な生活としてまとまりのあるものであるようにします。
- 単元は、豊かな内容を含む活動で組織され、児童生徒がいろいろな単元を通して、多種多様な経験ができるよう計画するようにします。

作業学習

作業学習は、作業活動を学習の中心にしながら、児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するものです。作業学習の指導は、単に職業・家庭科の内容だけでなく、各教科等の広範囲の内容が扱われます。

作業学習で取り扱われる作業活動の種類は、農耕、園芸、紙工、木工、縫製、織物、金工、窯業、セメント加工、印刷、調理、食品加工、クリーニングなどのほか、販売、清掃、接客なども含み多種多様です。

【指導に当たって考慮する点】

- 教育的価値の高い作業活動等を含み、活動に取り組む喜びや、完成の達成感を味わわせるようにします。
- 地域性に立脚した特色をもち、原料・材料が入手しやすく、持続性のある作業種を選定します。
- 実態に応じた段階的な指導ができるようにします。
- 多様な生徒が、共同で取り組める作業活動を含むようにします。
- 作業内容や作業場所が安全で衛生的、健康的であり、作業種や作業の形態、実習期間などに適切な配慮をします。
- 作業製品等の利用価値が高く、生産から消費への流れが理解しやすいものとします。

小・中学校の学習指導要領では、教育内容を各教科等で分類しており、実際の指導もその分類に基づいて進められています。

しかし、知的障害のある児童生徒の場合、その学習上の特性としては、学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場で応用されにくいことなどが挙げられます。また、実際的な生活経験が不足しがちであることから、実際の・具体的な内容の指導がより効果的であると考えられます。

このような特性を踏まえ、知的障害のある児童生徒に対して効果的な指導を進めるため、各教科・領域等を分けずに、これらの一部又はは全部を合わせて指導を行う指導の形態があります。